

wAds2008 キャンペーンテーマ：「Think&Link（考える輪を広げよう）」

文責：今野

「日本の HIV とエイズを巡る現状を変える」という使命を掲げる wAds2008 実行委員会は、今年度「Think & link」をテーマにキャンペーン活動を行う。「Think & link（考えて、つなげて）」には二つの意味を込めた。

■2つの意味

1、全国各地で HIV とエイズの啓発活動をする若者たち自身が、HIV とエイズの関わりについて「考え」、問題意識とモチベーションの共有を図ることで活動自体を「つなげ」、社会に若者の活動を見せていく。

2、HIV とエイズに関心を持っていない、これまで関心を持つ機会を持たなかった若者たちに、主催イベントや街頭キャンペーン・ウェブサイト等の一連のキャンペーンを通じて HIV とエイズについて「考える」きっかけを提供し、そのきっかけを全国各地で「つなげて」いく。

■「考える」とはどういうことか

◇自分と HIV とエイズとの関わりについて「考える」ための機会やきっかけを生み出すこと。

（→HIV とエイズという問題に対して、最も必要とされるのは自分と HIV とエイズとの関わりについて「考える」ことである。この「考える」ための機会やきっかけを生み出すことこそが wAds2008 が意図する Think（考える）である。）

・対関心層（活動している・これからする可能性のある若者）：

①「HIV 抗体検査カード」・「CHOICE! アプローチ」といった啓発手法を全国各地で活動する若者で共有。HIV とエイズと自分との関わりを振り返り「考える」機会を提供し、そこから実際に自分たちが行動するモチベーションをあげるきっかけを生み出していく。

②「HIV を含む性感染症の啓発活動に取り組む若者・各セクター関係者が集う会

～"知る"から始まる第一歩！～」（11月15日・16日）

上記のイベントを通し、活動する若者自身が日本全国における若者の活動を知ること、各々の活動と日本の現状について「考える」機会を生み出し、全体から俯瞰した自分たち自身の役割を認識しながら活動するきっかけを生み出す。

・対無関心層（HIV について興味関心がない若者）：

若者が純粋に楽しめるコンテンツをきっかけとしたイベントや街頭キャンペーンを通じて、HIV とエイズという問題を「考える」きっかけを提供する。

■「考えて、つなげる」とはどういうことか

◇現状について考えることで状況を把握し、そこから現状を変えるためのきっかけを全国各地で生み出していく。

（→考えるだけでは何も変わっていかない。現状について考えることで状況を把握し、そこから現状を変えるためのきっかけを全国各地で生み出していく。これこそが wAds2008 が意図する LINK（つなげる）である。）

・対関心層：

1、「HIV 抗体検査カード」・「CHOICE! アプローチ」といったコンテンツから、HIV とエイズと自分の関わりを「考え」、そこから HIV 抗体検査についての知識を自分から学ぶ・自分の意思で検査を受検するというような経験を経て、自らの活動に生かしていく。このプロセスを全国の活動する若者に「つなげて」いく。

2、ネットワーキングイベントを通じ活動へのモチベーションをあげ、そこからお互いの活動での意見交換や、HIV とエイズの活動をする他の団体と協働のきっかけを生み出し、若者の活動を「つなげて」いく。

・対無関心層：

1、イベントや街頭キャンペーンをきっかけとした HIV とエイズについて考える場を、首都圏だけでなく全国各地に「つなげて」いく。

2、イベントに来場した関心を持っていなかった若者に対して、wAds2008 のウェブサイトを見てもらうことで HIV とエイズについて考えるきっかけに止まらず、その後も継続的考える機会を「つなげて」いく。

以上